

# 吉備線LRT化協議へキックオフ

総社市と岡山市を結ぶJR吉備線。この吉備線のLRT（次世代型路面電車システム）化が長年の課題となっていました。片岡市長と岡山市の大森市長が5月7日、岡山市役所でトップ会談を行い、両市とJR西日本の3者を中心に本格的な議論を開始することで合意しました。



5月7日、JR吉備線のLRT化の計画素案づくりで合意し、岡山市役所で共同記者会見をする大森岡山市長と片岡総社市長（写真左から）

JR西日本が、平成15年に構想を発表したJR吉備線のLRT化。5月7日に岡山市役所で行われた、片岡総社市長と大森雅夫岡山市長のトップ会談で、議論のたたき台となる計画素案づくりを、両市とJR西日本の3者共同で進めることになりました。

記者会見で片岡市長は、「総社市東部の発展を、LRT化により実現できると思っています。市民のコンセンサス（合意）が得られれば、事業を進めていきたい」と、大森市長は、「LRT

T化は両市のまちづくり、観光振興にとって有効。駅の増加が見込まれるなど、市民の利便性が向上する」と述べました。

今後、吉備線の現状把握、LRT運行計画の検討、需要予測、路線計画・施設計画の検討、概算建設費の算出、事業運営形態の検討、導入に伴うメリットとデメリットなどを計画素案として取りまとめ、今秋を目途に市民に公表します。

**問い合わせ** 人権・まちづくり課安全安心係（☎8249）

## LRTってどんな乗り物？



富山市内を走る「富山ライトレール」（愛称ポートルム）

LRTとは、Light Rail Transitの略で、低床式車両（LRV）の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する「次世代の軌道系交通システム」のことです。

近年、道路交通を補完し、人と環境にやさしい公共交通として再評価されています。道路交通の円滑化、低床式車両や電停のバリアフリー化、公共交通のネットワーク化などのメリットがあります。

## ◆LRT先進都市に学ぶ

吉備線LRT化の協議が徐々に動きだすなか、LRTについて理解を深めてもらうようと、6月23日に総合福祉センターで、導入の先進都市である富山市の森雅志市長を招き、「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」と題した講演会を開催。吉備線の沿線住民ら約220人が傾聴し、LRT化による総社市のまちづくりを考えました。

## LRTがライフスタイルを変えた

— 森雅志 富山市長



森 雅志 富山市長

富山市は、吉備線と同様、平成15年にJR西日本がLRT化の構想を示した富山港線を、平成18年にLRT化した都市。森市長は講演で、人口減少と高齢社会に対し「住宅地の拡散を防ぐことが必要」と指摘し、公共交通の活性化を目標に掲げ、「積極的な公費投入」「沿線地域への居住促進」「中心市街地の活性化」を3本柱にLRTを導入した富山流の政策を紹介しました。また、LRT導入の効果

果については、「市街地に出る高齢者が増え、ライフスタイルを変えた。人を集め



片岡 聡一 総社市長

## ◆LRTを考える

講演に引き続き、「LRTによるまちの活性化」と題し、片岡総社市長、森富山市長、晝田眞三井原鉄道株式会社代表取締役社長（鼎談時監査役）の3者が鼎談しました。

森市長は、LRT化による経済効果で税収が増え、その増収分を中山間地域の交通弱者の対策に充てていると紹介。それを受け片岡市長は、「総社では企業誘致による経済活性化策が、

障がい者千人雇用といった弱者対策により影響をもたらしている。両市の政策は弱者対策という意味で目的が同じだ」と話しました。また、晝田社長は経営者の観点から「継続していく上では経営が黒字であることが重要。沿線自治体が足並みをそろえることが大切だ」と述べました。

今後、計画の素案づくりに向けて動き出す総社市に対し、森市長が「今の日本にはない発想を取り入れてみてはどうか」とアドバイス。片岡市長は、「これらがスタート。議論に議論を重ね、市民から盛り上がっていく必要がある」と話しました。



井原鉄道株式会社  
晝田 眞三 代表取締役社長  
（鼎談時監査役）

## 雪舟くん お盆休みます

### 運休のお知らせ

8月13日(水)～8月15日(金)

ご不便をお掛けしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

**問い合わせ** 人権・まちづくり課安全安心係（☎8249）

